

様式2 **令和2年度 清瀬市立清瀬中学校 学校評価表**

学校教育目標	育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動
人間尊重を基本理念に国際的視野にたも平和を愛する社会人の形成をめざして、正しい判断力と粘り強い実践力をもった生徒を育てる。・健やかな身体と豊かな情操をもった生徒を育てる。・高い知性とたくましい創造力をもった生徒を育てる	本校の教育目標に基づき、中学校教育を通じて中学校卒業段階における社会人基礎力の育成を目指すという視点から、育成を目指す資質・能力を「前に踏み出す力」、「チームで働く力」、「考え抜く力」、「社会人基礎力」、経済産業省)とし、あらゆる教育活動を通じて育成を図る。
目指す学校像(ビジョン)	また、インクルーシブ教育の推進を本校の特色ある教育をし、各教科の授業や学校行事、給食、部活動などにおける、特別支援学級と通常学級の生徒との交流及び共同学習を中心的な内容とする。そのために通常学級と特別支援学級の合同学年会を行うとともに、体育行事及び文化行事の各委員会において交流及び共同学習を企画し運営する。
【目指す学校像】 【目指す児童・生徒像】 【目指す教師像】	
○生徒にとって楽しく行きたいのある学校 ○保護者にとって頼みがあり、地域に根ざした学校 ○教職員にとって自己研鑽に励み、協力して進める学校 ○正しい判断力と粘り強い実践力をもった生徒 ○健やかな身体と豊かな情操をもった生徒 ○高い知性とたくましい創造力をもった生徒 ○常に生徒のことを第一に考える教師 ○生徒のためという同一の視点に立って協力し、体罰を許さぬ教師 ○自己研鑽に励み授業改善に取り組み教師	

前年度までの学校経営上の成果と課題

命の教育、インクルーシブ教育、国際理解教育の3つの推進に重点を置いて学校の運営を行っている。前年度はインクルーシブ教育についての教員の理解を深め、より一層連携を密にした結果、集団に馴染めなかった生徒も、取り組みを進めるうちに交流するようになってきている。今後は、体験的な学習活動のカリキュラムマネジメントを行うと同時に、保護者や地域とより協働した活動をしていくことが課題である。

柱	具体的方策	自己評価		学校関係者評価	次年度以降の改善方策
		評価		学校関係者による「自己評価」についての評価	学校関係者評価の結果を踏まえた改善方策
		取組評価	成果評価		
確かな学力の向上	・各教科等で生徒の自己有用感の育成に係る指導場面を意図的に設定し、生徒の主体的な学習活動を促し、学びを確かなものとする。	4	4	適切である。	生徒が主体性を発揮するためには自己肯定感の育成が不可欠であり、自己肯定感を向上させるには自己有用感の獲得が不可欠との考えから設定。次年度は体験的な学習に加え、探究的な学習の充実を視野に入れる。
	・「清瀬の子供たちに育てたい四つの力」に基づき、それらを相互に関連付けた力を育成し、ふるさと清瀬を誇りとする心を育てる。	4	3	清瀬は畑が多い。食育にもよいと思うので、農家に依頼し、農業体験など屋外でできることを取り入れてみる。またSNSを利用し、国内外を知ることもできることと良い。	「清瀬の子供たちに育てたい四つの力」に基づき、それらを相互に関連付けた力を育成し、ふるさと清瀬を誇りとする心を育てる。指導の内容、方法については、キャリア教育の視点と小中連携の視点を重視して行う。
豊かな心の育成	・第1学年で認知症サポーター講座、救急救命講習、JICA、第2学年で職場体験(介護施設・保育所等)、第3学年で赤ちゃんのチカラPI、JICAの代替学習(関連した内容を扱う授業)を「命と人権教育」として実施する。	3	4	人権教育はコロナ禍でもできるものに替えて体験させる。	本来の計画に戻すとともに、今年度実施した代替の取り組み(生徒会の取り組み、道徳授業、外部講師による授業)を踏まえ、コロナ禍にあっても後退しない計画を立てて行う。
	・体験学習(関連学習)のねらいを「前に踏み出す力」「チームで働く力」「考え抜く力」の育成に置き、生徒の主体性を育てる。	4	4	今年度は体験的な学習活動を通した「チームで働く力」の育成に重点を置いたところ、目標は十分達成されたと判断する。次年度は探究的な学習活動を通した「考え抜く力」の育成に重点を置く。	今年度は体験的な学習活動を通した「チームで働く力」の育成に重点を置いたところ、目標は十分達成されたと判断する。次年度は探究的な学習活動を通した「考え抜く力」の育成に重点を置く。
健やかな体の育成	・生徒の主体的な活動による、新型コロナウイルスへの対応を積極的に展開させる。	3	4	生徒による委員会活動では主体的な活動も見られたが、多くは「ルール」を遵守することに終始した。それでも給食中に私語をせず喫食する姿は自他を大切にしようとする姿であると評価できる。改善し継続する。	生徒による委員会活動では主体的な活動も見られたが、多くは「ルール」を遵守することに終始した。それでも給食中に私語をせず喫食する姿は自他を大切にしようとする姿であると評価できる。改善し継続する。
	・セーフティ教室や薬物乱用防止教室(あるいはその関連学習)を実施するとともに、生徒会活動などを通して生徒の主体性を育てる。	4	3	コロナ禍のため外部と連携した体験活動は行えず、学校給食と学校図書館とのコラボ企画「読書の秋」「SDGs」や学校給食と保健給食委員会とのコラボ企画「手洗い実験」を行った。コロナ禍を見越した工夫が肝要。	中学校3年間というのは、心が成長していく段階なので、人数を全体→学年→クラス単位で実施する。
特別支援教育の充実	・外部機関との連携を深め、生徒や保護者を公的な支援から孤立しないようにする。	4	4	子ども家庭支援センターや小平児童相談所、病院と連携したケース会議を、全ての学年で行った。特別なケースを除いて、様々なリソースを活用した支援につなげることに成功した。継続。	生徒や保護者を公的な支援から孤立しないようにするため、子ども家庭支援センターや小平児童相談所、病院と連携したケース会議を、全ての学年で行う。
	インクルーシブ教育の一環として、各教科及び行事、部活動等、様々な場面を利用して交流及び共同学習を行う。	4	4	特別支援学級生徒の状況に応じて通常学級との交流や共同学習を行った。特別支援学級生徒の勉強に対する動機付けやその後の転級にも大きな影響を及ぼした。継続。	インクルーシブ教育のより一層の充実を目指し、特別支援学級生徒と通常学級生徒との交流や共同学習を継続する。
本校の特色	・学校行事や体験学習(あるいはその関連学習)における保護者との協働を推進する。	2	4	コロナ禍のため外部と連携した体験活動は行えず、協働による行事としては「音楽祭」が唯一のものとなってしまった。しかし、協働した保護者の評価は高く、コロナ禍を見越した工夫を行いながら継続。	今までは違う形で協働による活動をして、できるだけ多くの行事を行いたい。
	・PTAや学校支援本部が参画し、協働する取組を実施する。	2	4	コロナ禍のため外部と連携した体験活動は行えず、協働による行事としては「音楽祭」が唯一のものとなってしまった。しかし、協働した地域からの評価は高く、コロナ禍を見越した工夫を行いながら継続。	次年度はSNSをうまく活用し、体験学習を実施したい。